

河内鋳物師の里・

# 大阪府松原市の鋳造関連遺跡

—松原市教育委員会の調査を中心に—

松原市教育委員会 横木 規秀

# 目次

はじめに

1. 松原市の位置と地形
2. 松原市域の鋳造関連遺跡
3. 丹南遺跡（E8-3-24）発掘調査概要
4. 丹南遺跡（E9-2-35）発掘調査概要
5. 立部遺跡（F8-3-5）発掘調査概要
6. まとめ

## 1－1. 松原市の位置

- ・大阪府の真ん中付近。
- ・律令制下では河内国丹比郡に属す。
- ・丹比郡は11世紀後半までに、丹北・丹南・八上郡に分割。
- ・松原市域は大半が丹北郡で、一部が丹南郡・八上郡域に属す。

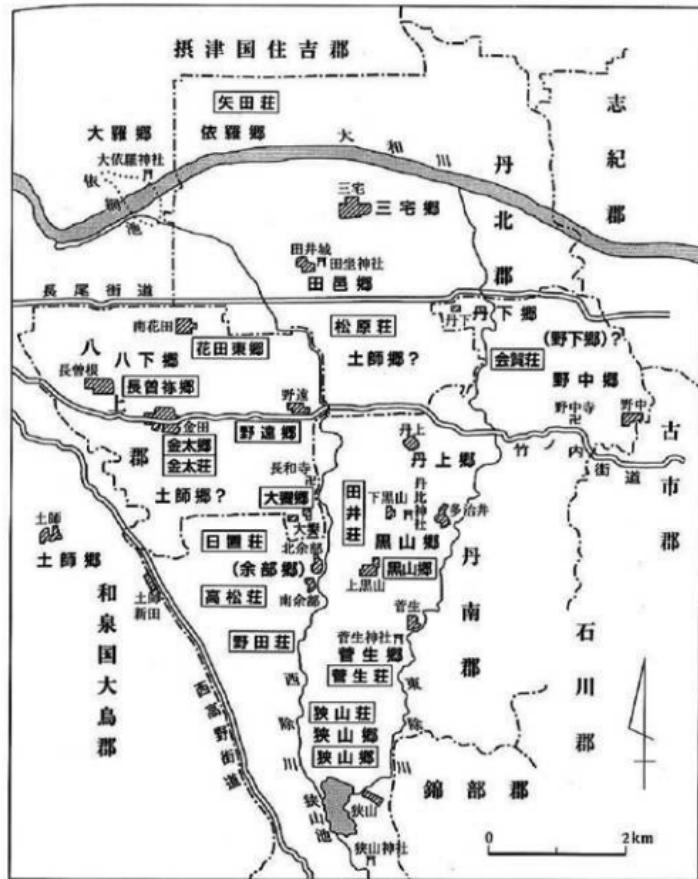


# 丹比郡、丹北・丹南・八上郡



『美原町史 第1巻』230頁図64より作成。

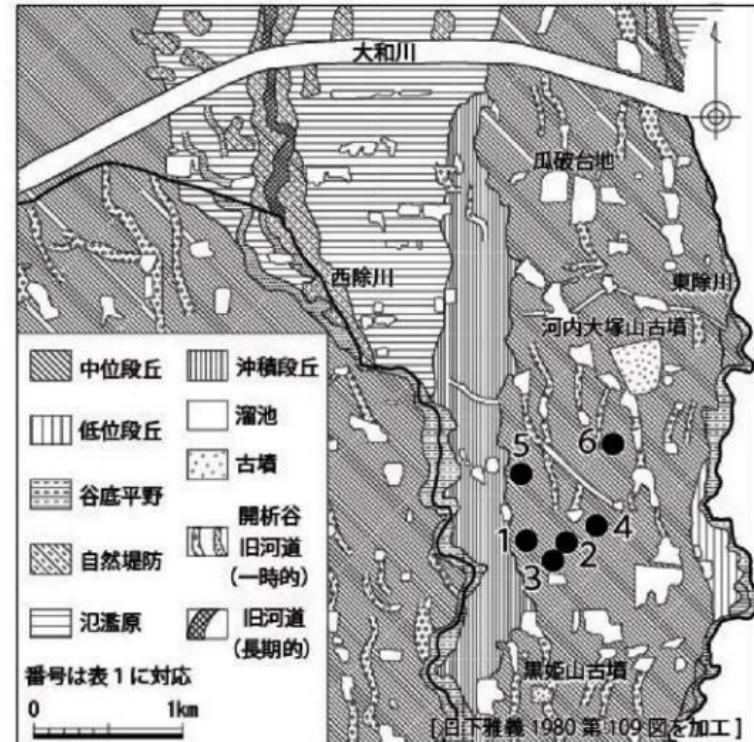
『大阪狭山市史第一巻』より引用



『美原町史第一巻』より引用

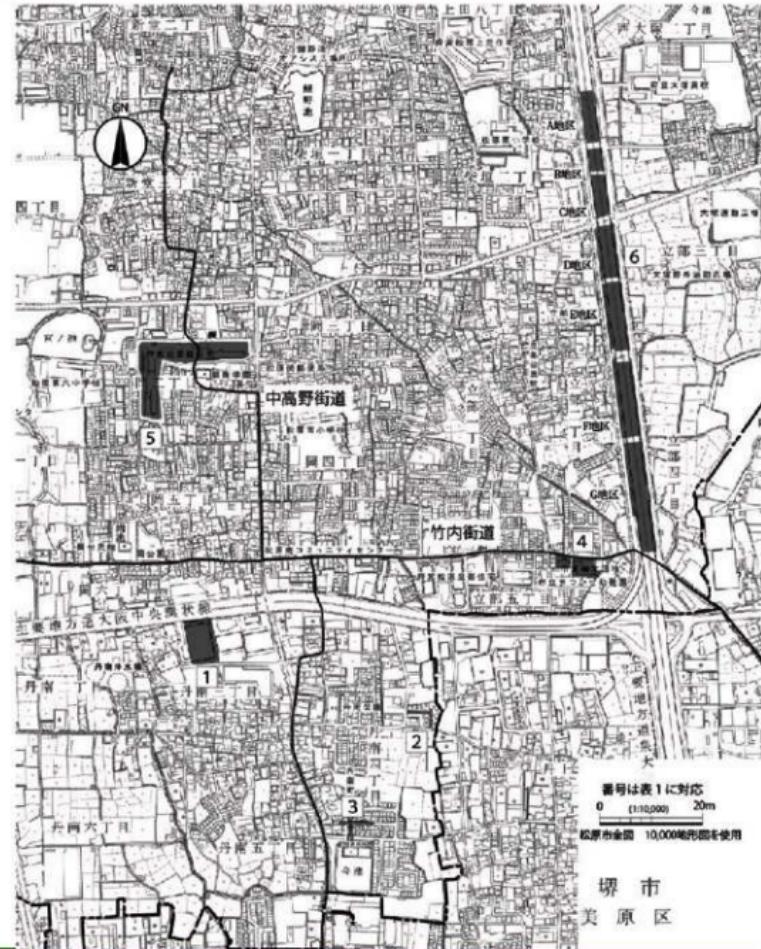
## 1 – 2. 松原市の地形

- ・東西に台地があり、その間に沖積地が広がる。
- ・市内の主要河川は、大和川・西除川・東除川。



## 2. 松原市域の 鋳造関連遺跡

- ・市域の南部～南東部に所在。
- ・台地上に所在し、街道にも近い。
- ・鋳造遺構は、岡遺跡1地点のみ。  
他は鋳造関連遺物が出土。



### 3. 丹南遺跡 (E8-3-24) 発掘調査概要

調査年：平成11年（1999）

調査原因：店舗建設工事

調査面積：1,812m<sup>2</sup>

中心時期：13～14世紀、18～19世紀

- ・土坑S179から溶解炉ルが良好な状態で出土。
- ・井戸S113から鋳造関連遺物がまとまって出土。



調査区垂直写真

# 調査区全景

北西部全景 東から



南西部全景 北東から



13世紀中頃～後半の木棺墓S092  
縦137cm×横76cm×深さ約60cm

全景 西から



瓦器椀・鎌近景 北から



## 土坑S179溶解炉ル出土状況



南から

# 土坑S179出土 溶解炉ル

内面



外面



# 土坑S179出土 溶解炉ル

内面



外面



# 井戸S113出土 炉壁

ル 上部 内面



ル 上部 外面



# 井戸S113出土 炉壁・羽口



こしきの上部  
(ガラス質付着なし)



ルカこしきの上部  
(ガラス質付着なし)



羽口  
(外面にガラス質付着)

## 環状土製品

- ・井戸S113から破片にして、約60点出土。
- ・断面は丸いものと三角形の2種類。
- ・被熱痕跡は内側面に多いが、上面・下面にもある個体がある。ガラス質は付着しない。



## 半球状土製品

- ・井戸S113（3点）と落込S001-2（1点）から出土。
- ・ユビオサ工痕が目立つものがある。突起の突出度は個体差あり。
- ・被熱痕はあるが、ガラス質は付着しない。



## 土坑S158 炉壁出土状況（西から）



### 3. 小結 丹南遺跡（E8-3-24）発掘調査概要

- ・鋳造遺構は未確認だが、残存状況が良好な溶解炉ル、井戸から炉壁・羽口など鋳造関連遺物がまとまって出土しており、付近で工房の存在が想定できる。
- ・調査区は、段丘端部に所在。南北大溝が西への傾斜変換点。同時期の遺構としては、大溝・墓・土坑。  
→居住域ではない空間に廃棄している。

## 4. 丹南遺跡 (E9-2-35) 発掘調査概要

調査年：平成18年（2006）

調査原因：宅地造成工事

調査面積：540m<sup>2</sup>

中心時期：13～15世紀代

- ・土坑S051より鋳造関連遺物  
が大量に出土した。

土坑S051  
東から



# 土坑S051 掘削状況



## 土坑S051 鋳造関連遺物出土状況（南から）



土坑S051  
鑄造関連遺物  
出土状況（1）



土坑S051  
鑄造関連遺物  
出土状況（2）



# 土坑S051 断面

西断面 東から



南断面 北東から



# 土坑S051出土 溶解炉ル

内面



外面



# 土坑S051出土 溶解炉ル 出湯口近景（1）

- ・出湯口にガラス質は付着しない。



土坑S051出土  
溶解炉ル  
出湯口近景（2）



# 土坑S051出土 緑青が付着した炉壁

全景



緑青近景



# 土坑S051出土 羽釜鋳型

羽釜鋳型



再利用された鋳型



# 土坑S051出土 鍋鑄型

俯瞰



立面



# 土坑S051出土 鍋鑄型

俯瞰



立面



# 土坑S051出土 容器鑄型

内面

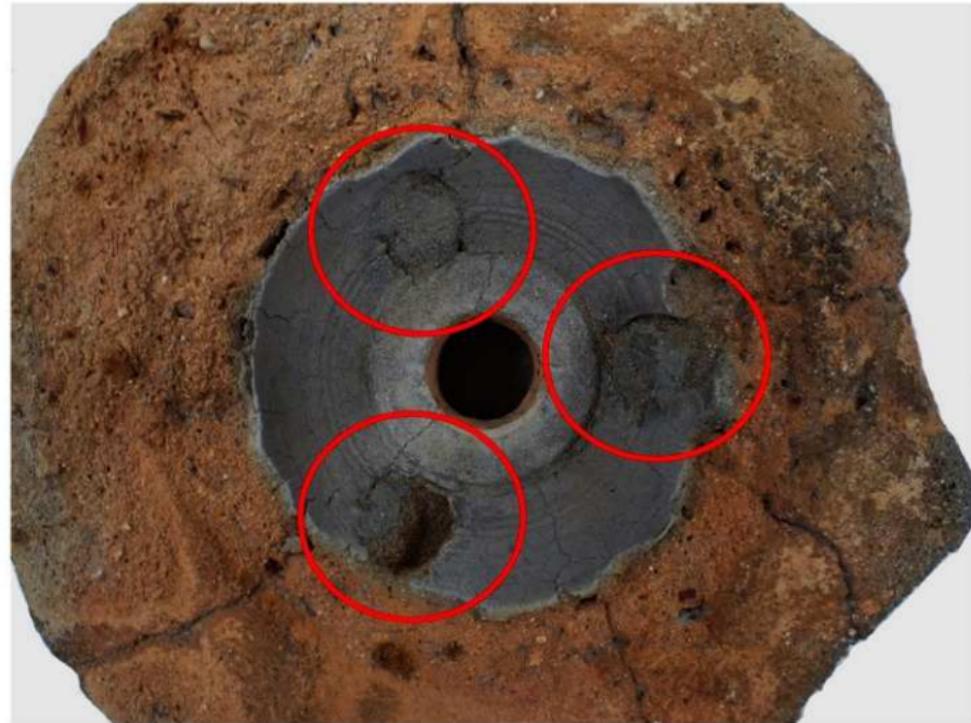


外面底部



土坑S051出土  
容器鋳型  
内面近景

- ・内面に押圧痕跡あり。



# 土坑S051出土 容器鑄型

立面



俯瞰



# 土坑S051出土 鑄型焼成用支脚

表面（被熱痕あり）



裏面（被熱痕なし）



# 土坑S051出土 砥石状土製品

被熱痕跡あり



溝S161出土 環狀土製品 ·  
土坑S051出土 半球狀土製品

環狀土製品



半球狀土製品



# 土坑S051出土 用途不明品

外面



内面



土坑S051  
用途不明品  
出土狀況



## 4. 小結 丹南遺跡（E9-2-35）発掘調査概要

- ・出湯口をもつ溶解炉も出土しており、溶解炉構造を検討する資料となる。
- ・鉄鋳物だけではなく、銅鋳物も生産していた。
- ・鋳造関連遺構は未確認だが、土坑S051から大量の鋳造関連遺物が出土。近辺に工房の存在が考えられる。
- ・鋳型は、鍋・羽釜・容器など複数のものがあり、丹南遺跡で生産された製品の特定が期待できる。

## 5. 立部遺跡 (F8-3-5) 発掘調査概要

調査年：平成5年（1993）

調査原因：市営住宅建替工事

調査面積：1,800m<sup>2</sup>

中心時期：11世紀、13世紀

粘土採掘土坑を検出。

炉壁・鋳型・鉄滓出土。



東から

# 粘土採掘土坑全景

南東から



南から



# 土坑S277出土溶解炉

遠景



近景



# 鑄型・鉄滓出土狀況

土坑S907鑄型出土狀況



土坑S578鉄滓出土狀況



# 鐵滓出土狀況

土坑S126



土坑S108



# 遺物出土狀況

土坑S227



土坑S166



## 5. 小結 立部遺跡（F8-3-5）発掘調査概要

- ・鋳造関連遺構は、粘土採掘土坑。  
鋳造関連遺物は、溶解炉・鋳型・鉄滓など。
- ・調査担当者の所見によると、検出遺構の中心は、11世紀代と13世紀代であり、河内鋳物師関係の鋳造関連遺跡としては、古い時期に属する。今後の整理作業を通じて、時期を明確にしたい。

## 6－1. まとめ1 鋳造関連遺跡の立地

### (1) 松原市域の鋳造関連遺跡の立地

- ・松原市域の鋳造関連遺跡は、羽曳野丘陵からのびる台地上に立地し、街道に近い場所に所在。  
→鋳型の原材料となる粘土の採取地[宮川1985]、木炭や製品等の運搬に便利。

## 6-2. まとめ2 鋳造遺構と工房

### (2) 鋳造遺構

- ・松原市域で確認された鋳造遺構は、岡遺跡のみ。
- ・丹南遺跡・立部遺跡とも炉壁・鋳型等の鋳造関連遺物や粘土採掘土坑が出土しているため、周辺に工房の存在が想定できる。現在の調査成果からは、丹南遺跡・立部遺跡内の各1~2地点で、工房が存在したとみられる。

## 6-3. まとめ3 出土溶解炉と鋳型

### (3) 丹南遺跡の溶解炉

下部のルと胴部のこしきが出土したため、少なくとも  
2段構造以上の溶解炉が存在したと考えられる。

また、緑青色の物質が付着する炉壁もあり、銅生産の  
可能性をうかがうことができる。

### (4) 鋳型

現時点では、羽釜・鍋・容器を確認。

## 6-4. まとめ4 鋳造関連の用途不明品

### (5) 丹南遺跡から出土した半球状土製品

溶解炉に関わる道具である可能性 [埼玉県埋蔵文化財調査事業団1994]。

E8-3-24では溶解炉に関わる遺物が一括廃棄された井戸S113から出土し、矛盾しない。ただ、使用方法に関する新たな知見は得られていない。

### (6) 丹南遺跡から出土した環状土製品

現時点では類例がなく用途は不明。半球状土製品が出土した井戸S113から約60点出土。共伴遺物から溶解炉関連の道具？

## 6－5. まとめ5—今後の課題—

- (1) 溶解炉の形態や構造の検討。
- (2) 半球状土製品、環状土製品などの用途不明品の調査。
- (3) 生産された鋳造製品の種類と鋳造道具の把握。

# 引用・参考文献1

- ・五十川伸矢 1992a 「鋳造工人の技術と生産工房」『中世都市と商人職人—考古学と中世史研究2—』名著出版 pp.147–168
- ・五十川伸矢 1992b 「古代・中世の鋳鉄鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集 国立歴史民俗博物館 pp.1–79
- ・五十川伸矢 1995 「丹南の鋳物師」『中世の風景を読む5 信仰と自由に生きる』新人物往来社 pp.281–306
- ・大阪狭山市史編さん委員会 2014 『大阪狭山市史』 第一巻 大阪狭山市役所
- ・(財)大阪市文化財協会 2008 『苅田4丁目所在遺跡発掘調査報告』Ⅱ
- ・大阪府教育委員会 1993 『岡2丁目所在遺跡発掘調査概要報告書』
- ・大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター 1995 『日置荘遺跡』
- ・大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財調査研究センター 1997 『真福寺遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第19集
- ・大阪府教育委員会 2002 『余部遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2001–2
- ・大阪府教育委員会 2003 『余部遺跡』Ⅱ 大阪府埋蔵文化財調査報告2002–1
- ・大阪府教育委員会 2008 『余部日置荘遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告2007–6
- ・(財)大阪府文化財調査研究センター 1996 『余部遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第11集
- ・(財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『観音寺遺跡』(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第34集

## 引用・参考文献2

- ・ 小田木富慈美 2019 「大阪市内の遺構・遺物からみた河内鋳物師とその系譜」『シンポジウム 河内鋳物師の実像に迫る（資料集）』大阪市立大学 pp. 37–58
- ・ 日下雅義 1980 『歴史時代の地形環境』古今書院
- ・ 倉吉市教育委員会 1986 『倉吉の鋳物師』
- ・ （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994 『金井遺跡B区』
- ・ 鋤柄俊夫 1993 「中世丹南における職能民の集落遺跡」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集 国立歴史民俗博物館 pp. 161–239
- ・ 西田昌弘 2020 「漆町遺跡（金屋地区）における溶解炉構造の復元」『鋳造遺跡研究会三十周年記念論集＜鋳造遺跡研究資料2020＞』鋳造遺跡研究会 pp. 63–72
- ・ 美原町史編纂委員会 1999 『美原町史』第一巻 美原町
- ・ 宮川満 1985 「第一章 中世前期の丹比地方 3 丹南の鋳物師」『松原市史』第一巻 松原市役所 pp. 226–232